

コクレオてらす



今という時代をどう生きるか

認定NPO法人コクレオの森 代表理事

辻 正矩

今回の新型コロナウイルス騒ぎで、日本や世界が抱えている課題があぶり出されたように思います。私たちは他の国々と経済ばかりでなく、いろいろな面で緊密に繋がっていること、自国の都合や利益だけで行動することの危うさ、危機に陥った時は敵味方の区別なく協力し合わなければならないこと等々。しかも、地球温暖化による異常現象の多発などの地球環境問題への対策も待たなしです。このように将来の見通しが不確実な状況は、人々の不安を掻き立てます。

このような時代に生まれた私たちが「善く生きる」ためには、どうすればよいのでしょうか？ 私は、みんなが物事を正しく理解し、みんなで議論し、みんなにとって最も良いと思われる解決法を見つけるしかないと思っています。

それでは、「物事を正しく理解する」には、どうしたらよいのか？ 自分の見方にはどうしても偏りがあります。そこで、客観的な事実関係を明らかにし、推論し、最適解を見つけていくという科学的な思考が必

要です。しかし、パニック的な状況や権力に抑圧された状況では、その解決法が採用されないことがあります。従来のやり方に縛られたり、フェイクニュースに操られたりするからです。そんな状況を打破するためには、人々が「正確な情報を得る」ことができ、それに基づいて「正しく議論する」力を身につける必要があります。

台湾の新型コロナウイルス対策が奏功している背景には、38歳のIT担当大臣のオードリー・タンの方が大きかったと言われていています。彼女は「徹底的な透明性」という理念を挙げ、公開できるあらゆる情報がインターネット上にあることで、政府の官僚や大臣が何を考え、何をやっているのかを全部知ることができ、人々が「国家の主人」になれると言っています。これは民主化のための強力なツールだと思います。私たちは正確な情報や正しい知識が得られるシステムをつくり、それに基づいて民主的に対話する文化を育てていきたいと思っています。

こどもの森

新年度に向けて

小学部8名、中学部4名の新生を含め54名の生徒たちと共に新学期がスタートしました。緊急事態宣言の影響で、Zoomでの入学式と進級を祝う会、オンライン学習と、いつもとは異なる始まりになりました。新しい年度に向けて、スタッフの思いをここに記します。

低学年は、新1年生が加わって、2・3年生も進級したことから、はじめは新しい低学年クラスとしてまとまらない感じがあるかもしれません。そうした不慣れな状態から「自分も人も大切に」という土台を大切に、学びを広げていけたらと思います。

高学年の今年度のテーマは「余白」です。毎年、修学旅行に行くための準備などで、ドタバタと1年を過ごしていることが多いので、個人でもクラスでもどれだけ余白をつくり、リラックスして過ごしていけるか。あとは、ほとんどが1年生からあがってきている新4年生の8人が、どんな新しい風をクラスに運んでくれるのか、とても楽しみです。

中学部は、自分のやりたいことに向かって手探りでチャレンジする場です。一人ひとりにとっての“学ぶと生きるをデザインする”中学部にできれば、と思っています。今年もこどもの森の学びを共につくっていきましょう。みなさんよろしくお願いします。(矢吹・藤丸・高原)

保護者より

二人の子どもの卒業式を終えて

この春、娘がこどもの森を卒業し、上の息子と共に、学園で8年お世話になりました。息子は6年生の時、「中学部に入りたい」と明確な目標ができてから人が変わり、それまでまったく取らなかった選択授業も受講し、自ら集会の司会をしたりリーダーシップまでとるようになりました。おかげで高校生活では趣味勉強も色々学べるのが嬉しそうで、毎日楽しく過ごしています。

一方、娘は自分の意見を伝えたり、人前で発表する事が苦手でしたが、次第に自分の想いを伝えられるようになり、彼女なりのリーダーシップをとって物事を進められるようになったりと嬉しい成長をみせてくれました。4月から似た学びのできる面白そうな高校へ通う事になり、これからどんな風に成長できるのか、楽しみでなりません。「学びたい！」と思った時に力を発揮できると信じて、サポートする事が親の役目かなと思っています。

ここで学べたことは親にとっても素晴らしい経験でした。この学園で今まで関わって下さった方々に感謝致します。

箕面こどもの森、サイコー！

(辻岡圭子)



おとなの森

ミライの学校のつくりかた

学び場コーディネーター Manabeeプログラム

大阪ガス主催の「ソーシャルデザイン・プラス」に応募した結果、9,000名を超えるご支援を頂き、ミライの学校のつくりかたとしてManabeeを開催することができました。今回は初めて2ヶ月の短期版で、教育プログラム作成と授業実施はないものの、コクレオの森が大切にしている「自己肯定感」「自己決定」「対話」「ESD」を学べるプログラムを実施しました。

ファシリテーター役としてサポートしたメンバーは、私を含め全員がManabee修生。一度聞いた講義も、改めて聞くと新しい気付きがあり、また、新たな参加者との対話は、受講時とは異なる刺激や発見がありました。

今回の参加者は大半が学校の先生や教育関係者。その中で「何かを変えたいけど個人では動きにくい」との声を耳にしました。私は、Manabeeという場が、そういう参加者同士を結びつけ、次へ動き出すハブの役割も担っており、受講後も語り合え、教育のミライを変える場でもあると感じています。(松浦)

オンラインで行った入学式



今年の入学式は、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が出された中、初の試みのオンラインで行われました。4月8日、ピカピカの小学1年生8人と、中学1年生4人が入学しました。子どもたちと保護者はそれぞれ、自宅からの出席。学校にはスタッフ6名だけが来て、パソコンの画面越しにお祝いをしました。今年は、遠く北海道や鳥取県から移住してこられた家族もおられます。熱い思いを持ったみなさんと一緒に、これからまた新しいこどもの森を育てていきたいと思っています。(守安)

こそだての森

「そらin里山」の一年とこれから



そらが始まって4年目の去年の春、箕面学舎より黒川公民館（旧川西市立黒川小学校）へ拠点を移し、新たに「そらin里山」がスタートしました。アクセスの問題があるものの、“幼児期という感性が敏感な時期に、里山の自然のなかでたくさんの好きなコトに出会ってほしい。それはきっとこれからの人生に直結していく”という「そら」のコンセプトのもと、田んぼや川、山の急斜面で遊んだり、デイキャンプでの火おこしや、モノづくり…、四季とともにある暮らしをおとな子どもも楽しみました。

今期最後の「そら」は、コロナウイルスの影響で黒川公民館が使えなくなりましたが、能勢にある工務店やお店の方々にご協力いただき“親子ピクニック@能勢ありなしの道”となりました。春うらのなか、心も体も元気になり「そらin里山」の一年の締めくくりにあふさわしい日となりました。今年度も里山の自然のなかで、楽しい活動をしていきたいと思っています。（西川）

ミライの森

サスティナブルな学び場がつながり始める



2019年度から始まったサスティナブルな学びのプラットフォーム事業“サスマナ”。民主的に生きる人を育み、持続可能な社会を目指す人や学び場がつながる場所です。13名の方と2つの団体が登録されました。まず、参加された方に個別にお話を伺い、一緒にできることを話し合いました。新しく学校を開校された方々がスタッフ体験に来てくれたり、「漢字の学習はどのような流れで行っているか」という学習についての質問や財政的なこと、運営面のことをFacebookページ上でやり取りしたり、定期的に発信したコンテンツで、大切にしたいことをお伝えしたりして、多くの交流が生まれました。

スタッフ体験では、一日を過ごした後に毎日ふりかえりとしてお話する時間を設けてじっくりお話をしました。参加者からは“『子ども主体』を正に体現している”それをとことん感じたスタッフ体験でした”という感想をいただきました。また、サスマナの参加をきっかけにコクレオの森の運営委員になられた方もいます。

今年度は、Zoomを活用したオンラインの交流、定期的にメンター相談ができるような働きかけ、そしてオフラインでできる集まりも予定しています。興味のある方はいつでもお問い合わせください。（佐野）



入学式で伝えた2つのこと

コロナウイルスの影響から、大阪にも緊急事態宣言が出されました。そのため、箕面こどもの森学園では、入学式と進級を祝う会、5月6日までの学習をオンラインで行うこととなりました。機材の操作などにまだ不慣れなところはありますが、この環境の中でも子どもたちの学びを精一杯サポートできるよう努めていきたいと思っています。

残念ながらオンラインでのスタートとなった新学期。入学式では、2つのお願いをしました。1つ目は、「不安や心配な気持ちは、だれかに話してみしてほしい」ということ。子どもたちの心にもいろんなストレスが溜まっています。話すことは離すことにつながっている。しんどい気持ちは、だれかに話すと少しずつ自分から離れていきます。子ども

たちには、少しでも心を軽くして、この時期を乗り切ってもらいたいと願っています。

2つ目は、「今こそ、本当に大切なことは何で、自分にできることは何なのかを考えてほしい」ということです。コロナウイルスが広がったことで、私たちの間に不安や不満が高まり、誰かや何かを悪者にし、批判や中傷を耳や目にするが増えてきました。でも、こんなときだからこそ、本当に大切なことを問い、自分ができることを考えるのが大切で、その積み重ねを「学び」と呼びます。オンラインの学習になったとしても、そんな学びを大切にする日々を子どもたちと一緒に積み重ねていきたいです。一日でも早くみんなに会えることを願いつつ。（藤田 美保）

インフォメーション

こんな学校
に出会いた
かった！！

こどもの森

♪♪ 箕面こどもの森学園 生徒募集 ♪♪

2020年度の生徒募集をしています！

自分も人も大切にしながら、いきいきと学べる学校に入学しませんか？

募集人数（2020年度）

小学部：3年生(2名)、5年生(1名)、6年生(3名)

中学部：1年生(4名) 2年生はご相談ください。

* 中3の受け入れは行っていません。

* その他の学年は、欠員待ちへの登録となります。

見学日：月・金（事前申し込み必要）

* 見学、入学をご希望の方は、コクレオの森までご連絡ください。

おとなの森

■ もりラボ企画「ヒモトレ体験会」

5月16日(土)開催予定でしたが、中止になりました。

■ ミライの学校のつくりかた -Manabeeプログラム-

子どもが生き生きする学び場とは？学びの本質に迫ります！

4回の講座と共有プログラム体験、参加者による報告会。

【日 程】6/27、7/11、8/8~9(合宿)、9/5、12/19

【参加費】全日程コース：一般36,000円、学生23,000円

講座のみコース：一般3,000円、学生2,000円

合宿のみコース：一般18,000円、学生12,000円

【定 員】20名

※お知らせしているイベントは、コロナウイルスの影響により、延期または中止の可能性がります。ホームページで最新情報をご覧ください。

——— その他のイベント ———

■ 子育てカフェ「こどもの森のハッピーアドバイス」

こどもの森の子育てエッセンス！

■ 教育カフェマラソン

2ヶ月に1度、社会で活躍されている方々のお話を聞いて、対話の文化を深める活動をしています。

■ 里山ダイアログ@黒川公民館

みんなで創るミライの学校ってどんなだろう？一緒に語り合しましょう。

こそだての森

■ 親と子の土曜クラス「そら」

日本一の里山で、親子がそれぞれに過ごす豊かな時間。

前期参加者募集中！

【日 程】5/2・16、6/6・20、7/4・18、8/22、
9/5・19、10/3

【時 間】10時から14時

【対 象】満3歳～修学前までの親と子ども1人ずつ18組

【場 所】兵庫県川西市 黒川公民館

【参加費】前期参加費 32,500円 or 年間 59,850円
小学生以上のご家族一人追加につき 500円/1回
(保険含む)

■ 森のアトリエ in 里山

ゆったり流れる里山時間の中で、たくさんの好きなモノ・コトに出会ってみませんか？

【日 程】5/9、6/27・7/25、8/29、9/26

【時 間】10時から15時

【対 象】小1～小3の15組の親子

【場 所】兵庫県川西市 黒川公民館

【参加費】15,250円 / 5回 or 4,050円 / 1回
内容によって教材費 500円。
小学生以上のご家族一人追加につき 500円 / 1回

《 編集後記 》

世の中が大変な時期に学園は新しいチャレンジとともに卒業式と入学式を無事に終えました。

今回より、皆様にお届けする通信の名称が「コクレオてらす」に変わりました。新たな制作メンバーが加わっての記念すべき第1号目となります。

いろいろと試行錯誤しながら、コクレオの森の情報をお届けできるよう頑張っていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願します。(日置)

発行日：2020年4月25日

発行者：認定NPO法人 コクレオの森

〒562-0032

大阪府箕面市小野原西 6-15-31

TEL&FAX:072-735-7676

メール:info@cokreono-mori.com

URL :https://cokreono-mori.com/

